

# 大学等における生物工学教育に 関するアンケート調査結果 I

平成 13 年 8 月 3 1 日

日本生物工学会

生物工学教育部会

## 目 次

1. はじめに	1
2. アンケート調査結果（各大学の教育理念、教育方法、およびカリキュラム）	
(国立大学)	
山梨大学工学部物質生命工学科	2
北陸先端科学技術大学院大学材料科学研究科機能材料科学専攻	5
筑波大学応用生物化学系	6
信州大学繊維学部応用生物化学科	8
京都大学工学部工業化学科	10
大阪大学大学院工学研究科応用生物工学専攻	11
福井大学工学部生物応用化学科	19
鳥取大学工学部生物応用工学科	26
岡山大学工学部生物機能工学科	31
徳島大学工学部生物工学科	37
九州工業大学情報工学部生物化学システム工学科	48
(公立大学)	
大阪市立大学大学院工学研究科生物応用化学専攻	51
(私立大学)	
北海道東海大学工学部生物工学科	52
帝京大学理工学部バイオサイエンス学科	53
東海大学開発工学部生物工学科	54
関西大学工学部生物工学科	55
(国立高等工業専門学校)	
宇部高等工業専門学校物質工学科	59
3. 資料	
1. 大学規準協会関連資料（生物工学コアカリキュラム）	63
2. 全国の生物工学関連大学リスト	84

## はじめに

1980年代の臨時教育審議会およびその後の大学審議会で議論が重ねられてきた、日本の高等教育政策も新たな段階に突入しようとしている。少子化と国際競争力が問われる中、構造改革の一環として、大学再編が一気に具体化してきた。遠山文部科学相が経済財政諮問会議に提示した「大学の構造改革の方針」（遠山プラン）は国立大学の統合再編や、国公立大学を含めた上位30校への重点投資と、民営化を視点に入れた高等教育の見直しが待ったなしの状態である。

これからは、人材育成や学術研究面での国際競争が一層激しくなる中で、世界水準の教育研究の展開を目指した個性豊かな高等教育が求められる。特に、技術者教育に関しては、日本生物工学会でも検討を始めたJABEE（技術者教育認定制度）が注目されつつあるが、これはこういった国際的に通用する技術者の育成といった観点からは重要である。

一方で、いわゆるゆとり教育の名の下に進められている、初等、中等教育における教育方法の変化に伴う学生の質の変化に対して、多くの高等教育機関が、カリキュラムや教育方法の改善について真剣に取り組み始めている。

このように、多くの高等教育機関が教育方法の改善に取り組み始めているが、生物工学関連の学部、学科は最近、改組や新設で設立されたものが多く、手探りでカリキュラムの設計や教育方法の改善を図っているのが現状である。そこで今回、生物工学会教育部会では、各大学の教育理念やカリキュラム、教育方法についてアンケート調査し、その結果を各大学の教育改善の参考にしていただくことを考えた。協力していただいた高等教育機関はそれほど多くはないが、それぞれ個性や特色のあるカリキュラムや教育方法を工夫されており、非常に参考になると思われる。今回の調査に協力いただけなかった高等教育機関には次の機会にお願いすることにし、今回はアンケート調査結果Ⅰとしてまとめることにした。

この調査結果について、ご意見等をいただければ幸いである。

調査担当 九州工業大学 清水和幸